

99歳女性の 生き方に脱帽

東電パートナーズ株式会社
東電さわやかグループホームさいたま施設長
若林 かね子

PROFILE ●わかばやし・かねこ
中学校数学教諭を経て、平成19年9月に東電パートナーズ株式会社に入社、平成21年4月にグループホームさいたま施設長に就任。介護支援専門員、介護福祉士。

今年の2月頃、骨折し入院されたAさんのお見舞いに行きました。「いかがですか」との私の問いかけに、「この痛みが緩やかだと楽しいのになあ」とお返事がありました。

私はその言葉にAさんの生き方を感じました。痛みを否定するのではなく受け入れ、どんなときでも楽しいことを見つけようとするその生き方、年の重ね方に脱帽です。「99歳はすごい！ さすが明治生まれだわ」。帰宅途中に私は、心が温かくなり、日頃Aさんをお世話できる幸せを感じました。

私は嬉しさのあまり、会うスタッフごとにその言葉を伝えました。「さすがAさん、どんなときでも常に前向き」「さすが明治の女性だ」とスタッフのみんなから同じ反応が返ってきました。スタッフのうちの1人の「なんだかかわからないがすごい」という言葉に、わたしはさらに嬉しくなり、このスタッフと一緒に働ける幸せを感じました。

6月のある日、Aさんとスタッフの会話のなかで、「おじいちゃん、おばあちゃんを大切に、私を大切に」というお話がありました。「私も大切に」ではなく、「私を大切に」です。Aさんらしい言葉にスタッフは大爆笑。「さすが99歳、そうじゃなくちゃね」とまた生き方をみさせていただきました。

その2カ月後の8月の中旬、車いすからベッドへ移乗するときスタッフが「大丈夫ですか？」と声をかけたところ、Aさんは「みなさんが私を大切にしてくれているからね」と6月のある日と同様の返事をいただきました。「返事があった」といつも以上にスタッフは盛り上がり、ニコニコしています。

Aさんのご家族には日頃の様子をお伝えしていますが、このようなやりとりが楽しめるのも、ご家族がAさんとスタッフを温かく見守っていただき、私たちを信頼して下さるお蔭と感謝しております。

そんなAさんも、骨折による入院から退院後の一時期に難しい時期があり、看取り対応になったことがありました。

ご家族や医師と訪問看護師の医療チーム、ホームが連携し終末介護にあたりました。

Aさんがだんだんと水分や食事をとらなくなるなかで、命には限りがあることを知ってはいますが、1日でも長く生きてほしいと願う私たちスタッフは、今をきちんと介護することが明日に繋がると思い、注意しながら一生懸命に介護しました。

スタッフは不安をかかえ、とくに夜勤者は1人なので対応の難しさがあり、ご家族の協力が不可欠だとあらためて実感しました。私たちが信頼して下さるご家族があってこそ対応できると感謝しております。Aさんは、今では食欲もあり尿意や便意も戻って、状態も安定しております。

私たちスタッフの幸せは安上がりだと、よくスタッフ同士で話します。今日も利用者が元気な様子でいる、それだけで嬉しくなります。「ありがとう」と言われたら疲れも吹き飛びます。介護の仕事は大変なことも多いですが、幸せを感じることも多いようです。

当ホームは、平成23年1月に京浜東北線与野駅東口徒歩10分のところに移転し、1ユニットから2ユニットへと規模を拡大します。これまで以上に心して介護し、利用者様の笑顔が絶えないようにがんばりたいと思います。



illustrated by Kouichi Yoshiizumi